

学校 東雲

だより

(しのめ)



TEL 31-3170 31-3180 FAX 32-1130 http://hachinohe.ed.jp/higasi_j/

※東中学校の情報は、ホームページやブログでも公開しております。是非ご覧ください。

いろいろな「元気」をパワーの源に！

教頭 工藤 聡

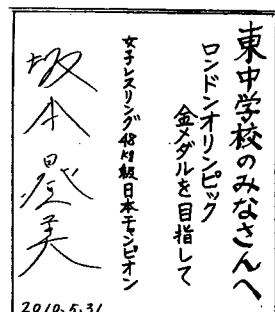
一昨日の始業式で、平成24年度の2学期がスタートしました。そして、それは夏休みの終わりを意味します。教員になって27年目ですが、特に2学期の始業式は、長い休みの終わりに猛烈な暑さが加わり、毎年自分の周りには寂寥感が漂うのですが、今年はいつもとより「元気」な2学期を迎えられたような気がします。その原因を考えてみた時、7月から8月にいろいろな「元気」をもらったからだ気がつきました。

まず一つ目は、日本選手団がメダルを量産したロンドンオリンピックです。中でも私がテレビにかじりついて観戦したのは、女子レスリング48kg級の小原日登美（旧姓坂本）さんの戦いです。小原さんの経歴については、世界選手権を6度制覇しながらも、その階級がオリンピックで採用されなかったため出場できず、いく度か挫折を味わいながら、今回31歳にして初めてオリンピック出場を果たしたことなど、テレビニュースで何度も出ていたのでよくわかっているかもしれませんが。また、昨年結婚した旦那さんとのほほえましい二人三脚ぶりもよく報道されました。そういった部分も肩入れしたくなるころではありますが、東中で、一昨年（現在の3年生が1年生の時）5月31日に講演してくれたということで、身近に感じられる方でした。その講演の前日に、一緒に食事をする機会に恵まれたのですが、超一流のアスリートでありながら、謙虚で非常に気配りのできる素晴らしい人間だという印象を受けました。東中での講演の際も、嫌な顔一つせず、笑顔で全生徒と握手をしてくれたのですが、それからも小原さんの人間性が伝わってきました。

二つ目は、光星学院高校野球部の甲子園での快進撃です。3回連続で決勝に進出するという事は、全国4000校余りのベスト2に残るということですから、大変な偉業なのです。東中と同じ湊高台町内にある高校で、卒業生も大勢通学しており、ベンチ入りメンバーとして、本校卒業生の野崎健太君も出場しています。小笠原康生君も、野球部員としてスタンドから応援する姿が何度かテレビに写し出されました。監督の仲井宗基さんも、5月30日に講演で東中を訪れ、市中体夏季大会を前にした我々にいろいろなことを話してくれました。

三つ目は、夏休み期間中の東中生の活躍です。各種大会の結果は、以下のようになっています。

- 第25回北奥羽中学校新人卓球大会 男子団体優勝
- 八戸地区交通安全協会野球大会 第3位
- 八戸市中学校新人ソフトテニス選手権大会
 - 女子個人第3位 谷川典子・奈良和奏
 - " 第5位 石橋風沙・佐々木茅紘



●第39回青森県中学生学年別水泳競技大会

- 1年50m自由形3位 1年200m個人メドレー5位 舘龍星
- 1年100m平泳ぎ3位 大久保史門
- 2年100mバタフライ1位 松村由奎
- 3年50m自由形4位 小田克章
- 2年100m平泳ぎ6位 立花桃香
- 3年100mバタフライ5位 中屋敷玲子

このほかにも、水泳競技では3年生の釜石恵太郎君、陸上競技で、3年生の吉田周平君、鎌田康太郎君、志賀陽太君、1年生の鎌田啓介君が東北大会に出場しています。その中でも、特筆すべきは、優勝した男子卓球部と水泳の松村君です。北奥羽中学校新人卓球大会というのは、岩手県北部から上北(十和田・三沢)・むつ下北地区の40校以上の参加があり、その中の優勝ですから大変価値があるのです。松村君も、学年別という括りはありますが、県のナンバー1ですから、これもすごいことなのです。

オリンピックから甲子園、そして東中生の活躍まで、私だけでなくいろいろな人が「元気」をもらったと思います。その陰には、当然のこととして大変な努力があったことは想像に難くないことです。それを目の当たりにできた者として、ただ感動したり驚くだけでなく、それを自分自身のパワーの源とできればいいのではないのでしょうか。

東中のオリンピックにあたる体育祭まであと3日となりました。生徒が一生懸命勇躍する姿が、保護者や地域の方々に感動をあたえることも少なくないようです。日曜日の体育祭には是非おいでいただきますようお願いして、保護者の皆様方への2学期のご挨拶といたします。今学期も、よろしく願いいたします。

少し元気の出る話 5

その① 昨日の昼頃のことで。学区に住む40代女性の方から、匿名で学校に電話がありました。次のような内容でした。「今朝の7時32分頃、ローソン湊高台店近くの路上で、東中生4名(男子1名、女子3名)が、横断しようと道路の脇に立っていました。私が車を停車させて横断をうながすと、女子3名は軽く会釈をしながら目の前を通りました。今時の中学生にしては礼儀正しい生徒だと気持ちが悪くなりました。次に横断した男子生徒は、道路を渡ると、わざわざ自分の方に向きを変えて、深々と一礼してくれたのです。大変感動しました。小学生では普通にやっていたことが、なぜか中学生になるとやらなくなったり、子どもの時にできていたことが、大人になると偉ぶったりしてやらなくなる御時世に一服の清涼剤のように感じられ、どうしてもお話したく電話しました。背負っているカバンと比較すると、身体は小さいように感じましたので、1年生か2年生だと思います。」朝、急いでいると、一時停止することさえ時間があったいなく感じることもあるのですが、それは徒歩で通学している生徒も同様だと思います。「一時停止してくれたことに感謝をし、一礼する」という行為が、感動を与えることもあるのですね。東中生全員がこのような気持ちを持つことができれば、ますます住みやすい学区へと変わっていくのではないのでしょうか。

その② 夏休み期間中の8月15日に、平成13年度卒業生が卒業前に埋めたタイムカプセルを掘り出そうということで40数名集まりました。バックネット裏に埋めたということで、2時間ほど掘り返しましたが、最終的には見つからず、再度挑戦しようということにして、街での懇親会に繰り出して行きました。私が東中に赴任した年の卒業生ですので、記憶のある生徒も何人かいたのですが、みんな立派な大人になっていました。東中が、卒業後に再会することになった場所となっていることにうれしさを感じ、ほかの卒業生も同様ですが、平成13年度卒業生に「幸多かれ」と祈りました。(文責：工藤聡)

